

南大洋Kerguelen海台近海から産出した珪藻化石を用いた鮮新世の季節性海水分布の復元

Pliocene seasonal sea-ice history around the Kerguelen Plateau in the Southern Ocean based on diatom analysis

*石野 沙季¹、加藤 悠爾¹、須藤 斎¹

*Saki Ishino¹, Yuji Kato¹, Itsuki Suto¹

1. 名古屋大学大学院 環境学研究科

1. Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

南大洋の古環境推定には、海底堆積物から産出する珪藻化石が重要な指標として用いられてきた。例えば、海水分布域の復元は、生物地理学的研究（e.g., Armand et al., 2005）により明らかになった海水関連珪藻の産出量変動にもとづいている。しかし、これまでに海水分布の季節性に注目した復元例、すなわち、夏季および冬季の海水縁を復元した研究例はほとんどない。Armand et al. (2005) に報告されている海水指標種群には、分布域が夏季海水域に概ね限られる種（夏季海水種）と冬季海水域まで広域に多産する種（冬季海水種）が見られる。そこで本研究では、海水指標種群を夏季・冬季海水種に細分化し、その産出量変動から長期的にわたる夏季・冬季海水分布域の推定を試みた。分析に用いた試料は、南大洋インド洋区の堆積物試料ODP Leg 188 Hole 1165B（夏季海水縁近傍）およびODP Leg 119 Hole 745B（冬季海水縁近傍）である。本発表では、鮮新世温暖期およびその後の寒冷化に対して、南大洋インド洋区で夏季・冬季海水縁がどのように分布・変動していたのかを報告する。

キーワード：南大洋、古環境、海水、ODP、珪藻

Keywords: Southern Ocean, paleoenvironment, sea ice, ODP, diatom